

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	話し合ったこと	見えてきたこと	取り組んだこと	運営会議への提案	来年度の方針
相談支援グループ	・豊岡市障害者自立支援協議会設置要綱への相談支援グループの位置づけについて	・要綱に位置づけられることで、地域課題を提案する役割となり、自立支援協議会での立場が明確になる。	・豊岡市障害者自立支援協議会設置要綱への相談支援グループの位置づけについて運営会議に提案した。	・要綱上の位置づけについては、運営会議に一任する。	
	・事例検討を中心とした会議運営を行った。 (目的) ・相談員がスーパーバイズを受けることにより、スキルアップを目指す。 ・事例検討で上がった課題を個人因子や環境因子に振り分けることにより、地域課題を抽出する。	【移動支援の地域課題について】（平成29年8月の事例より） ・特別地域加算がない（訪問系サービスには特別地域加算有） ・身体障害者の移動支援の対象者は身体障害者手帳1級（肢体不自由）となっており、それ以外の方は利用できない。 ・自宅までの移動距離が長いことや、報酬算定できない本人の食事時間がネックになり、ヘルパー事業所からサービスの提供を渋られる。 ・利用者にとって、必要時や社会参加するための支援をより受けやすくするため、ガイドラインの見直しを求める必要がある。	【移動支援の地域課題について】 ・8月の事例検討で移動支援についての課題を抽出 ・9月、市社会福祉課障害福祉係担当者と移動支援についてQ&Aの実施 ・平成30年3月移動支援についてのアンケートを相談員を対象に実施	・10月、移動支援の課題について、運営会議に提案。 運営会議からは、課題となっている個別のケースの件数や事例を挙げ、整理を行い再提出を求められる。	・持ち越した課題の整理を行うとともに、地域課題として協議した内容を運営会議に提案を行う。 ・会議の持ち方としては、地域課題抽出を意識した事例検討を継続するとともに、事例検討以外にも地域課題をタイムリーに提案が行えるようにする。
	・わが町の相談支援体制について	【入浴支援の地域課題について】（平成30年2月の事例より） ・生活介護での入浴は報酬の加算がなかったり、入浴設備がないため、実施している事業所が少ない。 ・人材不足により、同性ヘルパーによる入浴介助が困難 ・豊岡市居宅生活支援事業の身体障害者デイサービスは身体障害者手帳1級（肢体不自由）のみが利用対象 ・実費対応できるサービスがあっても、生活困窮世帯では利用料の捻出が難しい。	・事例から地域課題が抽出された段階であり、今後、運営会議提案に向けた整理が必要		
			・平成29年9月、第七回コアメンバー会議開催 るべき相談支援体制について、各指定事業毎の現状と課題をまとめ、豊岡市と協議を行う予定であるが、資料未完成のため、未実施		

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	部会で取り組んだこと	見えてきたこと	来年度の方針	豊岡市への提言
しごと部会	<ul style="list-style-type: none"> 働き手が必要な企業が多くあるにも関わらず、障害者雇用の募集は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業に『障害のある方のできること』『障害のある方の作業に取り組んでいる姿』を知つてもらい、障害者への理解を深めてもらうことにより、障害者雇用の拡大につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者雇用の啓発動画を活用 【上半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年6月、商工会の労災・雇用保険組合の会合で啓発動画を上映、研修会での活用の呼びかけを行った。 ・啓発動画貸出しを周知するポスターを作成し、ハローワーク豊岡内に掲示した。 【下半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年11月11日、12日の2日間「たじまびっくりばこ」で啓発動画を上映 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者への理解を深めるだけでなく、雇用の拡大につなげるための次のステップが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発動画の貸出は継続 ・但馬障害者就業・生活支援センター及びハローワーク豊岡と連携し活動を検討する。 【取組み案】 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用を考えている企業に、既に障害者雇用をしている企業の取り組みを見たり聞いたり出来る機会を作る ・企業に就労系障害福祉サービス事業所を見学してもらう機会を作る。 ・企業とのネットワークを作る為に、商工会議所などと繋がりを作る 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者雇用に取り組んでいる企業を紹介し、障害者の就労に関する理解や企業の取り組みを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者雇用に取り組んでいる企業を市広報に紹介 【上半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・市広報掲載に向け、日程調整やインタビュー内容の検討を行った。 【下半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年12月13日（水）10：00～12：00 株式会社 東豊精工を訪問 ・市広報（平成29年3月号）掲載 ※添付資料② 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー記事を掲載した企業とさらに繋がることで、企業とのネットワークを作る必要がある。 ・市広報以外の周知方法を検討する必要がある。（地域のコミュニティだよりなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報に掲載後、企業側の反響や評価を聞き取りし、企業インタビューの評価及び振り返りを行う。 ・但馬障害者就業・生活支援センターと連携し、「城崎の旅館」「鮑業界」などの地場産業の企業インタビューを行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 就労系障害福祉サービスの制度が当事者やその家族に正しく伝わっていなかったり、知られていなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労系障害福祉サービスの内容について当事者やその家族に知つていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市広報を利用して就労系障害福祉サービスの周知 【上半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市広報（平成29年9月号）に掲載 【下半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・制度紹介の評価および振り返りを行うため、市や相談支援事業所から聞き取りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉計画策定にあたってのグループインタビュー等で「制度のことが難しくて分からない」「窓口はどこに行ったら良いか分からない」などの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度周知、情報発信の継続の必要性はあるため、豊岡市に引き継ぎ制度周知等を依頼し、しごと部会としての取り組みは終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度紹介については、引き続き市広報で情報の周知をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市内の就労移行支援事業所の数が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業所がその専門性を發揮できる環境が整い、一般企業への就労を希望される障害者が就労に向けた専門性の高い支援を受けることができる。 ・就労系障害福祉サービス事業所職員の支援スキルを高めることを目的とした勉強会が開催される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○就労移行支援事業所の減少における課題や情報共有 【上半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・但馬圏域内の障害者就労に関する会議内容の共有（主な意見） ・就労移行支援事業所が平成30年度は市内2事業所のみ（内、1事業所が現在休止中で、平成30年度も休止継続が予想される） ・就労アセスメントを行えるのは、就労移行支援事業所のみであるため、豊岡市において、平成30年度以降、就労アセスメントのニーズを充足できなくなることが危惧される。 ○勉強会開催について 【下半期の取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期、内容等の検討を行う。 時期 平成30年7月又は8月 対象者 就労系障害福祉サービス事業所の職員 内容（案） <ul style="list-style-type: none"> ①就労されている当事者を交えたパネルディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ・どのような支援や声掛けが就労へのモチベーション維持につながったのか。 ②就労に結びついた事例発表 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の求める人材と本人の力がマッチングする為にどのような支援をしているのか。 ・就労後の定着支援をどのように行っているのか。 ・就労を目指している方の個別支援計画のあり方。 ③グループワークでフリートークをする <ul style="list-style-type: none"> ・初回は悩みを話し合い、「悩み」や「やりたいこと」の中から次回のテーマを決めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労系障害福祉サービス事業所職員が就労支援の意識を持って支援を行うことや就労アセスメントのニーズを充足できる仕組みが維持できれば、就労移行支援事業所減少の影響を最小限にとどめることができるのではないか。 ・就労系障害福祉サービス事業所の現場支援員が、利用者の就労をサポートするために必要なスキルを高めることが必要である。 ・勉強会を開催するに当たっては、管理者やサービス管理責任者と協働する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労系障害福祉サービス事業所の現場支援員のための勉強会を開催する。 ・「現状や課題」「あるべき姿」を意識しながら、勉強会の参加者やテーマを絞り込んでいく。 	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	部会で取り組んだこと	見えてきたこと	来年度の方針	豊岡市への提言
こども部会	・障がいのある子どもを育てる保護者同士の横のつながりを深める場が必要	・自助組織	<p>【上半期の取り組み】</p> <p>○保護者代表(複数名)と部会員との相談の場を設け 今年度の開催時期や内容について意見聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の垣根を超えた繋がりを目指したいが、障害別での悩みを共有したい思いもある。 ・自主組織として担うには荷が重く、専門機関の後押しが必要 <p>【下半期の取り組み】</p> <p>○「お話カフェ」開催 日 時：平成29年11月7日（火）10：00～12：00 場 所：立野庁舎 参加者：20名（託児3名） 目 的：保護者同士の横の繋がりをつくる。 手 法：部会主導ではなく参加者の意向を反映させるため、保護者代表（数名）と協働で企画</p>	<p>○「お話カフェ」開催 ・将来への不安が尽きない中で、先輩保護者の経験談を聞いたり、社会資源の情報収集の機会になっている。</p> <p>・障害の垣根を超えた繋がりと、子育てに対する様々な保護者の価値観を尊重していくために、専門機関と協働で開催を継続しながら、保護者の主体性を育んでいく必要がある。</p> <p>・初参加の保護者にとっては繋がりを作る機会となっている一方、以前から参加されている保護者からは、学びの機会としての場づくりの希望も挙がっている。</p> <p>・開催目的について、修正・変更の検討の余地あり。</p>	<p>○「お話カフェ」の継続 ・保護者代表（数名）と役割分担しながら、開催について検討する。 ・保護者代表の再考 …特別支援学校PTAの協力など</p>	
	・相談支援事業所で困ったケースを抱え込みやすい。 ・関係機関との連携や共有を図りたい。	・相談員のスキルアップとネットワーク作り	<p>【上半期の取り組み】</p> <p>○平成29年度第1回こども連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートファイルの現状について学習会 講師：社会福祉課、こども育成課職員 ・学校のない時（放課後や長期休暇等）の過ごし方についてグループワーク ・福祉サービスの現状、必要な資源などについて話し合い <p>【下半期の取り組み】</p> <p>○平成29年度第2回こども連絡会 日 時：平成29年12月14日（木）10：00～12：00 場 所：立野庁舎 参加事業所：5事業所（10名） ・お話カフェ（11月7日開催）報告 ・架空事例を通して関係機関との連携を考える。 ・来年度のこども連絡会開催方式について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他関係機関と連携をしていることを再認識した。 ・関係機関が多機関にわたるため、各々の機関の役割を知ること、顔の見える関係づくりの重要性を確認 	<p>○来年度の開催について ・こども部会主催ではなく、相談員が自動的に集まり、情報共有や勉強会を開催する方向で検討中 ・相談員同士のネットワークについては、上記の通りある程度のまとまりをみたので、来年度以降は別の機関との連携を図る取り組みについて検討する。 →下記項目との統合も検討</p>	
	・関係者での情報の共有を行い、今後の児童の支援体制について検討できる機会を定期的に持ちたい。	・支援者間で子どもの情報を共有できる架け橋として、サポートファイルの活用	<p>【上半期の取り組み】</p> <p>○発達障害児等支援連絡会議への意見聴取と協議 ・平成29年度第1回こども連絡会においてサポートファイルについて市担当課からの講義を受けた。</p> <p>【下半期の取り組み】</p> <p>○具体的な取り組みはなし</p>	<p>○サポートファイルの現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入時、保護者や支援関係機関に対し、案内や説明を受ける機会が設けられているものの、具体的に運用できているところは多くない。 ・保護者を含めた子どもを支援する関係者が、サポートファイルの本来の目的や運用方法について共通認識を持つことが必要 	<p>○あるべき姿の見直し ・サポートファイルだけに焦点を当てず、子どもや保護者を中心とした支援体制や多職種連携の在り方を検討する。 ・多機関との連携の在り方を検討していく一歩として、福祉分野間の相互理解（例えはサービス等利用計画と個別支援計画との密接な連動など）を深めるための方策を検討する。 →来年度は上記項目との統合も検討</p>	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	来年度の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 重度心身障害者（児）について検討するプロジェクトチーム	<ul style="list-style-type: none"> 新生児（重心）の方がNICU(新生児集中治療室)から在宅へ戻るにあたり小児の訪問看護を受けている事業所も少ない等家族を支える仕組みが乏しいため、その後地域で生活する中で本人・家族が孤立しがちになり十分な支援を受けることが出来ていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> NICUから在宅への移行の際、退院前にチームを作り支援を整える等、家族を支える仕組み（マンパワーのみならず金銭面においても）があり、十分な情報の下、在宅での生活を安心して過ごすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会の企画 まずは自立支援協議会委員、相談支援事業所職員等を対象に豊岡市における現在の退院からの流れや保健師との連携について学ぶ機会を持つこととし、勉強会を開催（予定） <p>「医療機関との連携を考える勉強会」 日 時：平成30年3月22日14:00～ 場 所：豊岡市役所立野庁舎 A会議室</p>	<ul style="list-style-type: none"> 病院から在宅へのサポート体制について、まずは豊岡市における現状を知ることが重要であるとともに、勉強会を通して関係機関が連携を深め、共通認識を持ち、顔の見える関係作りを進めて行くことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会の振り返りと課題の整理 必要に応じて第2回を企画し、支援のネットワークを深めていく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、在学中や卒業後の重心の方の日中活動の場が少なく、利用を希望しても利用できない場合が多くある。 また、家族が緊急時に短期入所を利用したくても受け入れ可能な場所がなく本人・家族に大きな負担がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 在学中や卒業後に本人・家族が必要な量のサービスを受けることが出来る。 また家族の緊急時等（慶弔時や体調不良等）に短期入所を利用し、支援を受けることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者が希望しているサービスと実際に利用できているサービスとの違いを把握し、数値化する為に実態調査票を作成 ※添付資料③ <p>対 象：豊岡市にお住いの身体障害者手帳1級かつ療育手帳Aを所持しており在宅にて障害福祉サービスを利用している方（施設入所者を除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> 重心の方に対する他市町の取り組みの調査と資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉計画策定にかかるグループインタビューでの家族への聞き取りで、日中活動の場や緊急時の受け入れ先が不足しているなど、必要なサービスを十分に受けることができない悩みがあることがわかった。具体的にどのようなサービスがどれくらい不足しているのかを把握することが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 実態調査の実施と結果の分析 他市町の取り組みを参考に豊岡市において必要なサービス、しくみを検討 	

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	来年度の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 喀痰吸引について検討するプロジェクトチーム	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引等第三号研修受講後、継続的なフォローアップ研修の必要性がある。 ・第三号、指導者研修受講と事業実施する事業所が少ない。(フォローアップが必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手技の研修を通して、支援員や介護職のスキルアップと意欲の向上を目指す。 ・看護、介護の連携の強化を図ることで、研修受講者や事業実施をする事業所が増加する。 	<p>【上半期の取り組み】</p> <p>○「フォローアップ研修をするためのモデルとなる研修(以下、モデル研修)」を実施 日 時：平成29年7月19日(水)13：30～15：30 参加者：①第三号研修受講修了者（ヘルパー7名） ②指導者（看護師4名） ③プロジェクトチームメンバー 内 容：講義DVDでの学習 人形と吸引器を実際に使用した演習 グループワークで課題抽出 等 モデル研修の様子を、動画で撮影した。</p> <p>○豊岡健康福祉事務所が開催した「介護職員による痰吸引等の実施をすすめるための研修会」で、喀痰吸引プロジェクトチームの取り組みを報告 日 時：平成29年9月8日(金)13：30～15：30 参加者：15事業所 24名 内 容：喀痰吸引プロジェクトチームの取り組みを報告するとともに、モデル研修の様子を撮った動画を見いただいた。</p> <p>【下半期の取り組み】</p> <p>○フォローアップ研修の実施 日 時：平成29年11月15日(水)13:30～16:00 場 所：立野庁舎 多目的ホール 内 容：・手技に関わる基本講習 ・基本研修評価項目の手順に基づき演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉、地域連携の拡大が必要 ・フォローアップ研修等の継続が必要 ・研修の状況を見ることができたり、制度について聞けることで支援者の理解が深まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の取り組み（活動報告書の作成）が行えたことで終了とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この制度に関する問い合わせの対応や、制度の広報・推進にリーフレットを活用していただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所での事業実施に対する意識や理解が低い。 ・相談支援員、ケアマネージャー等の制度や事業に関する知識が不足している。 (広報活動が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活を送る上で家族、看護師以外の医療行為のニーズと対象者の現状を知ることで、理解力が深まり、事業に対する意欲が高まる。 ・利用者、家族の相談に対応する者が制度、事業をフローチャートや映像的に理解し、適切にサービス調整が出来る。 	<p>【上半期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動は、取り組むことができていない。 <p>【下半期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修後、参加者の反響を受けて「広報活動をどうしていくか」と「フォローアップ研修を今後どう持続させていくか」を検討する。 ・平成29年12月から毎月1回のプロジェクト会議にて活動報告書（リーフレット）の作成 【制作の目的】 ①プロジェクトの取組みによる成果の報告 ②介護職員による喀痰吸引の実施に関する広報 ③実施するための情報提供 			

平成29年度豊岡市障害者自立支援協議会（運営会議）

	現状と課題	あるべき姿	プロジェクトチームで取り組んだこと	見えてきたこと	来年度の方針	豊岡市への提言
せいかつ部会 住宅について検討するプロジェクトチーム	<ul style="list-style-type: none"> 精神科病院に長期入院をしている精神障害者の地域移行を進めるにあたり、退院先の住まいの設定が必要だが、住宅確保をするには、保証人問題、貸主の貸し渋りなど様々な壁がある。 上記については、精神障害者だけでなく、他の障害者や生活困窮者、高齢者も同じ問題に直面する可能性があり、そうした状況の中で一支援者の支援だけでフォローすることは困難である。 	<p>【入居までの支援システムの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連帯保証人がいない人でも賃貸契約ができるよう、公的保証人制度などで保証人を立てられるようになる。 公営住宅の入居要件の緩和 入居しやすい民間賃貸住宅の情報提供のシステム <p>【入居後の支援システムの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居後の生活が安定して継続できるように入居者それぞれの支援体制をつくる。 	<p>【上半期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の制度・サービスの確認 昨年度の入居支援に関するアンケートの分析 先進地域の取り組み確認 <p>【下半期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国にいくつかある先進的な取り組みをしている居住支援システムについて調査 居住に関する研修会の共催 「居住支援研修会」 実施主体：豊岡・朝来健康福祉事務所 日 時：平成30年3月1日14：00～16：30 場 所：豊岡市民会館4階大会議室 内 容：「障害者の居住支援の取り組みと支援体制の充実」 講 師：阪井土地開発（株）代表取締役 (NPO法人おかやま入居支援センター理事) 阪井 ひとみ 氏 ※添付資料④、⑤ <p>【参加者】</p> <p>不動産会社：豊岡11名、香美1名、 養父1名 病院関係者：3名 福祉関係者：豊岡17名、養父1名 行政：豊岡9名、香美1名、 新温泉1名 健康福祉事務所7名 計 52名</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不動産会社と行政や福祉関係者との横の繋がりの必要性 居住支援のための協議会設置の必要性 居住要支援者に対する入居までの支援と入居後の生活支援のシステムが必要だが、それを構築するためには以下の理由により、居住支援のための協議会が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ①対象は障害者だけでないこと ②支援者は福祉関係者だけでなく、住居に関する不動産会社、行政や法律関係者等も含まれること ③地域コミュニティづくりの視点も不可欠であること 	<ul style="list-style-type: none"> ○居住支援に向けた懇談会の開催 (不動産会社と行政・福祉関係者等が情報交換できる場を継続的に開催する。内容は情報共有や制度の学習など。 右記に提言した協議会が発足するまでの一時的なものとしての位置づけ) 	<p>障害者、高齢者、低所得者等の居住要支援者が地域で住み続けるための手立てや仕組みが必要。</p> <p>今後は障害者自立支援協議会内の協議にとどまるのではなく、居住支援のための協議会を立ち上げ、幅広い分野で構成されたメンバーでより具体的・実践的な内容を協議すべきである。</p>